

「令和7年度 市民トーク」開催結果（萩間地区）

以下のとおり結果を報告します。

1 日時等

- (1) 日 時 7月10日（木） 午後7時00分～午後8時30分
- (2) 会 場 萩間コミュニティセンター
- (3) 内 容 市長からの市政報告・地区からの質問
- (4) 参加人数 49人

2 市長からの市政報告

当日の配布資料を添付

3 地区からの質問

別紙のとおり ※事前質問は回答書を配布・当日の会場での質問あり

4 当日の様子



令和7年度 市民トーク（萩間地区）質問・要望一覧

日時：令和7年7月10日（木）

19時～20時30分

場所：萩間コミュニティセンター

番号	事 項 名	担当部課
1	河川・道路等の管理について	建設課
2	萩間川宮下橋上流右岸について	建設課
3	道の駅「そらっと牧之原」について	お茶特産課

※この他、提出いただきましたご質問につきましては、後日地区を通して回答いたします。

令和 7 年度 市民トーク

萩間地区（7/10 開催）

質問事項・説明を希望する市政内容

件 名	1 河川・道路等の管理について
内 容	市内で一番構成員の少ない西萩間区ですが、担当すべき区内の河川・道路は少なくありません。 高齢化や農業従事者の減少も顕著で、管理の行き届かない放任園も日に日に増え通行不能になりつつある路線も出てきている有様です。 現状では河川・道路愛護、春と秋の道役と路線を限定したりして何とかやっておりますが、人口の割に守備範囲も広く、区民も全体的に疲弊気味でいつまで続けられるか、廻り切れないという感じです。 普段の生活上はもちろん、市内の景観的にも、防災上の観点からも問題ありと考えますが、こういった問題を今後どうしていくべきか、市としてのお考えをお聞かせください。 【担当：建設課】
回 答	道路及び河川愛護運動については、その地域にお住まいの皆様が実施する、除草、枝木の伐採、路面清掃や側溝清掃などの実施による美化活動です。市が管理する道路や河川の延長も長いことから、地域の協力を得ながら管理しているのが実情であり、毎年、地域の皆様に活動いただき感謝しております。 市といたしましては、地域の皆様に引き続き河川・道路愛護運動を実施していただきたいと考えております。そのような中で、牧之原畑地総合整備土地改良区が多面的機能支払交付金の制度の活用を推進しておりますので、地域の負担の軽減のためその活用も検討いただければと思います。また、地域が作業を実施する中で、高齢化が進み作業が困難な現場については、具体的な場所や実施内容等を確認させていただいたうえで、必要な箇所については、極力市で実施するようにしていきたいと考えております。

令和 7 年度 市民トーク

萩間地区 (7/10 開催)

質問事項・説明を希望する市政内容

件 名	2 萩間川宮下橋上流右岸について
内 容	令和 4 年 9 月の大雨で萩間川宮下橋上流右岸が決壊寸前まで追い込まれました。 あと 15 分大雨が続いたら決壊し大変な被害が出たのではないかと思います。 要所要所で整備が進んでいるが今後も今まで以上の大雨が懸念されるので定期的な視察・見回りを強化していただき、安心安全な河川維持をお願いしたい。 【担当：建設課】
回 答	令和 4 年 9 月の大雨により被災した宮下橋上流右岸につきましては、県による災害復旧工事により復旧が完了しております。 萩間川については、萩間川水系河川整備計画に基づき河川改修を進めており、中上流部の浸水原因となっている治水上のネック部や護岸が弱い部分を緊急的に解消することにより、流下能力の確保、護岸の強靱化を図っていくと、県から聞いております。 また、浚渫や河川内の草木の除去等は、県が継続して実施しております。 河川のパトロールについては、市内の二級河川全てについて、県と市が合同で定期的の実施するとともに、河川管理協力員による月 1 回のパトロールも併せて実施しております。県では引き続きパトロールを実施するとともに、大雨等の後にもパトロール等を実施し、河川機能の維持に努めていくとのことであります。 市といたしましては、今後も気候変動により同程度もしくはそれ以上の大雨が頻発する可能性もあることから、河川機能の維持及び河川整備区間の早期の整備完了を継続して要望してまいります。

令和 7 年度 市民トーク

萩間地区（7/10 開催）

質問事項・説明を希望する市政内容

件 名	3 道の駅「そらっと牧之原」について
内 容	道の駅「そらっと」が、十分な計画と長期を見据えてオープンいたすと思いますが、長期的に経営を維持するために、新規顧客・リピーターなどどのような策を考えていますか？ 例として、JAF 発行の JAFMate に道の駅の紹介記事を記載してみてもはどうでしょうか。 「ほうせんかん」「よっていけ市」との競合はあるのか。協力関係となるのか。 【担当：お茶特産課】
回 答	ご質問の道の駅「そらっと牧之原」の長期的な経営の維持についてです。 道の駅の運営につきましては、指定管理者に「伊豆村の駅」や「道の駅なんぶ」など、地域密着型の事業展開により多くの実績を有する TTC グループを指定しております。 この会社は、多くの方に「そらっと牧之原」を目的地として訪れて頂けるよう、魅力ある施設を目指し、施設の設計段階から事業に参画していただき、同時に、地場産品の直売はもちろん、お茶、レモン、シラスなどを中心に飲食物についても、牧之原市のオリジナル商品やメニューの商品開発を行っております。 また、商品の供給元となります市内の生産者や物販事業者につきましては、現在 100 者を超える方々と契約が締結されている状況にあります。 道の駅開駅後には、これらの取組に加え、全国の主要都市圏からのバスツアーや空港をはじめとした市内観光スポットなどを巡るツアー、富士山静岡空港と連携した、相互の商品連携や空港利用者におけるインセンティブの付与、外国人観光客に対応するための多言語対策の実施など、集客に向けて多岐に渡る検討を進めていると聞いております。

	つづきまして、「ほうせんかん」「よっていけ市」との競合はあるのか。協力関係となるのかについてです。 道の駅「そらっと牧之原」の開駅により、生産者の皆様には販売先の増加、消費者の皆様には商品の選択肢が増加することになります。 選択肢の増加により、各施設で魅力的な新商品開発による相乗効果が生まれると予想されますので、市内での「直売所めぐり」など、新たな交流人口の創出という好循環につながることを期待されます。 今回の道の駅「そらっと牧之原」が市民の皆さまはもとより、市外、県外、国外からのお客様も集い交流のできるにぎわいのある施設づくりを目指してまいります。
--	--

「市民トーク（萩間地区）」の当日参加者による質問

※会場での質疑応答を要約してあります。

追加質問 1 鳥獣被害について

鳥獣の被害について、ここのところ我々のところに情報が入ってこないのか、まだ現在もたくさんあるのか、それとも実際農業の方で被害はあって市としては把握しているのかどうか確認したい。

【回答者（市長）】

鳥獣被害は今もある。

耕作放棄地が増えて、イノシシ、シカ、ハクビシンとか多くある。そういった中で、電柵は効果があると思う。

私も自分の畑があるが、電柵をやったら被害がなくなったので電柵の効果があるのかなと思う。

市内全体の状況については担当が答える。

【回答者（大石お茶特産課長）】

市内での鳥獣被害については年間大体 300 頭くらいということで把握をしている。

こちらの萩間地区については、特に蛭ヶ谷地区においては、電気柵の補助金の申請が多々ある。

今年に入ってから、蛭ヶ谷地区の方々の補助金が多いということで、萩間のこちらの地区についてのイノシシの被害についての把握はしている。

台地尾根沿いのところに結構イノシシ、カモシカ、ニホンジカも見られると聞いているので、お茶特産課で集計を取りながら、また猟友会と協力しながら対応を進めている。

追加質問 2 施政方針について

市政方針に夢があると思う。

伝えたい先だが、市外から来ている方を主に、若い世代、未婚、子供を育てる世代に強く伝えてほしいが、そういったことはやっているか。

【回答者（市長）】

牧之原市の昼夜間人口比率は 115%で、市外から通勤している人が多い。今後、そうした人たちが結婚や世帯を持つ際には、市としてアパートの家賃補助や引っ越し費用の支援がある。また、市内在住者や市外からの移住者には住宅取得に対する補助金も設けており、こうした制度については市内企業を訪問して直接説明している。

さらに、Uターンを促進する「おかえりプロジェクト」を実施しており、市内外の高校生が学生ローンを借りた場合、Uターンすれば最大 24 万円の利子相当額を助成する仕組みがある。Uターンしなくても登録するだけで学生ローンの利率を 2%以下に抑えることができるよう、市内金融機関と連携している。また、この地域に 5 年間勤務した場合には、企業と市からそれぞれ 10 万円ずつ、計 20 万円の奨励金が支給される制度もあり、スキルアップを支援している。加えて、「おかえりプロジェクト」に登録した人には、市内企業の雇用情報や条件などを市から発信し、就職をサポートしている。

一方で、企業活動においてはカーボンニュートラルへの対応が求められており、未達成の場合はカーボンクレジットを購入せざるを得なくなる。職住近接を進めれば自動車通勤が減少し、CO2 排出量を削減できるため、環境面でも意義がある。市としても企業に対し市内居住を呼びかけており、例えばスズキを毎年 2 回程度訪問し、社長に対して職員の市内居住を依頼するなど、積極的に働きかけを行っている。

【質問者】

広報活動を行っていること自体は評価するが、その結果として、牧之原市の制度の良さを知ってもらい、周辺市からの通勤者と比較したうえで牧之原市を選んでもらえるような成果を確認してほしい。単なる情報発信（プッシュ）だけでなく、実際に選ばれたかどうかという結果（プル）を把握することが重要である。そのうえで、地元の土地をアパートや住宅として活用していくことで、地域住民の生活基盤にもつながるので、そうした点も含めて検討をお願いしたい。

【回答者（市長）】

ありがとうございます。